

<大阪府豊能郡能勢町>

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

○スクールバス導入による課題への対応や、アフタースクールの充実を図った例

1. 市町村の概要

◆人口：10,281人（平成30年4月現在）

◆小学校：1校，児童数322人 ◆中学校：1校，生徒数185人

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

※学校数，児童生徒数は平成30年5月1日現在

平成28年4月，町内全6小学校（歌垣，東郷，田尻，久佐々，天王，岐尼），全2中学校（西，東）を再編整備し，施設一体型小中学校として「能勢ささゆり学園」を開校。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

次代の能勢を担うグローバル人材の育成

～「自分が好き！」「仲間とともに！」「能勢が好き！」「夢がいっぱい」の子どもの育成をめざして～

◆研究課題

統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究

- ① 保護者と児童生徒と地域の間をしっかりとつないでいくこと
- ② 地域のことを学び，地域の行事等に参加しながら，地域の一員であることを自覚させること
- ③ 地域の願いに応える学校運営をすること

統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組の研究

- ④ 能勢町スタンダードの授業を小中全教職員共通認識の上，実践する
- ⑤ 学習方略の研究をし，一人ひとりの学び方を支援する。
- ⑥ ICTを活用した魅力ある教育活動を展開

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

能勢ささゆり学園 能勢町立能勢小学校（12学級，322人）

能勢町立能勢中学校（6学級，185人）

◆調査研究対象校に統合することとした背景・理由

人口流出が激しく，平成12年の人口14,186人（国勢調査）をピークに毎年減少し，出生数が40人を下回る年もあり，民間団体による調査ではあるが消滅可能性都市24位という結果が出ている。

◆統合に至るまでの過程

H20年9月 「能勢町学校教育検討委員会」を立ち上げ

H21年11月 「能勢町学校再編整備に関する基本方針」発表

H24年4月 「新学校プロジェクトチーム」編成・検討

H26年3月末「能勢ささゆり学園の開校に向けて」を発表

◆統合による学校の教育環境の変化の状況

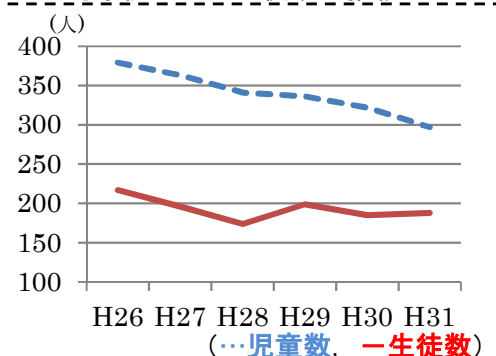
- ・地域と学校のつながりの希薄化
- ・「地域の教育力」の低下
- ・スクールバス通学（50%以上）による通学状況の変化
- ・少人数から大人数への学校生活環境の変化

◆調査研究対象校の位置



町内全6小学校，全2中学校を再編整

◆対象校の児童生徒数の推移



4. 本調査研究において取り組んだ内容

○学校支援地域本部事業の活用 → ◆研究課題①②

地域の方々の協力を得て、能勢の歴史・ミドリシジミ類（ゼフィルス）の生態と保護・能勢の浄瑠璃についての授業（ふるさと学習）を実施し、能勢町を深く学習した。また、平成30年度からコミュニティ・スクールと連携し、地域の方を招き、学校行事支援、学習支援、挨拶運動、環境整備を行った。

○小中高一貫教育の取組 → ◆研究課題③

研究発表会にて、小中高の教員が協働して創り上げた多数の授業を公開し、それぞれに有識者を招き、研究討議を実施した。地域の方に学校の取組と能勢の子供の様子を知っていただく機会となった。

○体力向上の取組 → ◆研究課題③

スクールバス通学による体力低下が懸念されるため、能勢町の子供の体力向上に町立保育所・私立幼稚園・能勢小学校・能勢中学校が協働した「能勢町体力向上ミーティング」を開催。幼児・児童・生徒の疾走能力向上プログラムである「スポーツオノマトペ体操」作成に向けて準備を行った。

○学力向上の取組 → ◆研究課題④⑥

①ICT機器を活用した授業の研究・実施（ICT活用先進校視察を生かして…）

- ・小中学校全教室にモニターを配置し、視覚的にも分かりやすい授業の実践。映像教材の活用。
- ・放課後学習における学習支援ソフトの活用。

②授業改善（秋田視察研修、日本授業UD学会全国大会、小中高一貫教育全国サミットを参考に…）

- ・話し合い、自ら発信する活動を積極的に取り入れた授業形態の工夫。
- ・廊下等を活用し、小中学生が相互に学びあう（沖縄に関する学習や行事新聞等）掲示物の充実。
- ・小中学校で連携し、高めあう自主学習（ノート）の充実。
- ・小中合同で行う学力向上担当者会の実施。

○アフタースクールの取組 → ◆研究課題⑤

放課後、小学生を対象に地域のボランティアの方と、算数・数学検定や漢字検定の合格を目標に自主学習や検定を意識したテストを実施した。また、ICT機器を活用し、学年ごとのドリル学習を実施した。中学生は、ICT機器を活用し、地域の学習塾と協働して自立学習塾を実施し、学習を深めるための支援員を配置した。算数・数学検定は中・高校生も受験できるよう、夏休みと3学期の放課後に実施した。

5. 研究の成果と今後の取組

○研究の成果

小中学校で、上記の研修や取組を活かし、思考力・表現力の育成を目標とした「授業改善」に取り組んだ。小学校では、「授業が楽しい」と答える児童が85%となった。また中学校では大阪府社会性測定用尺度調査において「自己肯定感」平成29年度調査中学1年生4.02、中学2年生4.11であったが、平成30年度2学期において中学1年生4.10、中学2年生4.20、中学3年生4.17と昨年度より向上した。

地域連携に関しては、今後も継続的な取組が必要である。体力向上の取組では「能勢町の子供の体力向上」というミッションを共有することで、保幼小中が連携をする良い機会となっている。今後さらに、学校運営協議会と地域学校協働活動の活動を軸にしながら、地域との連携を進めていきたい。

○今後の取組

- ・福祉と連携をした児童生徒支援（スクリーニング等）
- ・支援教育を軸とした学校運営に関する研究・推進
- ・新学習指導要領に対応した学びの研究（カリキュラム・マネジメント等）・推進
- ・能勢町の子供の体力向上（「能勢っ子！かけっこ！日本一！」）

6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

地域との連携の希薄化・体力の低下・スクールバス・小中連携・・・、新たな課題がどんどん出てきます。その中でやはり大切なのは「人と人とのつながり」だと感じています。その「つながり」をどう作っていくのか、今も悩みながらがんばっています！